



2019年1月7日

蝶理株式会社
代表取締役社長 先濱 一夫

2019年 年頭挨拶

皆さん、明けましておめでとうございます。新年を迎え、心身ともに新たな気持ちでスタートを切れたことと思います。

2018年は、中期経営計画「Chori Innovation Plan 2019」の2年目であり、設立70周年の節目の年でした。昨年の年初に「2018年は変革の幕開けとなるような年にしたい」と言いました。まさに変革の幕開けとなるような1年でした。

4月に発表した2017年度通期決算では、新生蝶理として初めて売上高3,000億円を超え、経常利益も2期連続で最高益を更新しました。この2018年度は中期経営計画の最終年度目標を1年前倒しでの達成を臨むところまでできています。

また、10月には日中首脳会談に併せて開催された「日中第三国市場協力フォーラム」へ参加しました。当社が中国事業の第一線で成果を上げ続けていることが評価されたものであり、当社の日中貿易に新しい軌跡を残せたことを大変嬉しく思います。当社と中国との歴史を簡単に振り返ると、1958年から日中関係が悪化し、日本と中国は貿易取引ができなくなりました。その後、1961年になり中国から認められた25社の貿易会社だけが友好商社として貿易取引ができるようになり、その指定に当社も選ばれました。日中友好商社として指定を受けてから約60年の間、中国事業は当社の基幹事業であり、看板事業であり続けています。

2019年は、世界が、政治が、経済がますます大きく変化していく予感があります。日本では、元号の改正、大阪でのG20開催、消費税増税、ラグビーワールドカップ開催等ビッグイベントが目白押しです。また、事業環境においては、世界中で顕在化している保護主義の流れは懸念材料ではありますが、「変化をチャンスに」という気持ちで事業軸・各本部でしっかり対応していくことが重要です。変化に対応して変わることができたところだけが生き残ります。当社においては、今年も大小様々な変化・変革を積上げていきましょう。

特に、大きく変化している分野の1つにデジタル技術の進歩があります。当社でもRPAの導入や社内データの有効活用により業務の効率化・高度化を進めております。全社的な

「デジタル感度」の向上は、働き方改革の1つでもあります。今後も全社を挙げて推進すべき重要な課題であると認識しています。

最後に、法令遵守です。法令遵守は、基本中の基本です。法令違反は、一瞬にして長年積み上げた信頼を失墜させます。当社は CHOI 活を中心に不正撲滅に取り組んできました。今後も方針を変えることなく、継続していきます。

最後になりましたが、皆さんの健康は最も大切です。今年1年、健康に気をつけて、元気に明るく頑張っていきましょう。

以上